

令和6年度
総合型選抜入試1期入学試験

基礎学力試験問題

(小論文)

1. 試験時間は、60分です。
2. 問題は、この冊子の1～6ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
3. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
4. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
5. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
6. 終了の合図があったら、すぐに筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
7. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
8. 不正な行為があった場合には、解答をすべて無効とします。
9. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 保健医療学部

受験番号		氏名	
------	--	----	--

今後、一層の高齢化が見込まれる我が国において、高齢者が生きがいを持って満ち足りた人生を送れることが重要になると考えられる。しかし、高齢期には、加齢に伴い外出行動範囲が狭まり、社会参加の機会が減少していくことが知られている。さらに、それに伴って、孤立する高齢者の増加や、高齢者の日常生活における生きがいの低下も懸念されている。

問題 次の問いに答えなさい。

問1 高齢者が孤立しないために重要となるのが、徒歩圏や自転車圏、「近隣」や「近所」といった場で交流する相手の存在といえる。表1、図1はそれぞれ、「年齢・性別からみた近所の人との付き合い方」と「近所の人との付き合い方と生きがいを感じる程度」を示している。これらについて以下の問いに答えよ。

1) 以下の選択肢 a～e のうち、表1、図1 から言えることを 2つ選びなさい。

- a. 男女ともに、75歳以上は、65～74歳よりも「会えば挨拶をする」と答えた者の割合が高い
- b. 年代を問わず、女性よりも男性の方が「お茶や食事を一緒にする」と答えた者の割合が高い
- c. 男女ともに、75歳以上は、65～74歳と比較して「趣味をともにする」と答えた者の割合が高い
- d. 「趣味をともにする」と答えた者は「外でちょっと立ち話をする」と答えた者よりも生きがいを「十分感じている」と答えた者の割合が高い
- e. 「お茶や食事を一緒にする」と答えた者は、そうでない者と比較して、生きがいを「あまり感じていない」と答えた者の割合が約2倍である

答え () ()

2) 表1において、75歳以上の男性のうち、近所の人と「お茶や食事を一緒にする」と答えた者の割合は、65～74歳の男性のそれと比べて何倍になるか。解答は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを答えよ。

答え () 倍

3) 図1の空欄部 (A) に当てはまる数字を答えよ。

答え () %

表1 年齢・性別からみた近所の人との付き合い方（複数回答）

(%)

	会えば挨拶をする	外でちょっと立ち話をする	物をあげたりもらったりする	相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	お茶や食事を一緒にする	趣味をともにする	病気の時に助け合う	家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする
65～74歳 男性 (n=565)	86.0	49.0	43.4	12.6	6.2	10.6	3.4	5.5
65～74歳 女性 (n=545)	84.2	68.4	54.7	21.3	22.6	12.3	6.6	3.5
75歳以上 男性 (n=419)	81.1	53.5	50.1	23.4	15.3	19.8	9.5	9.8
75歳以上 女性 (n=520)	79.0	57.7	55.2	25.2	23.7	19.2	11.3	11.2

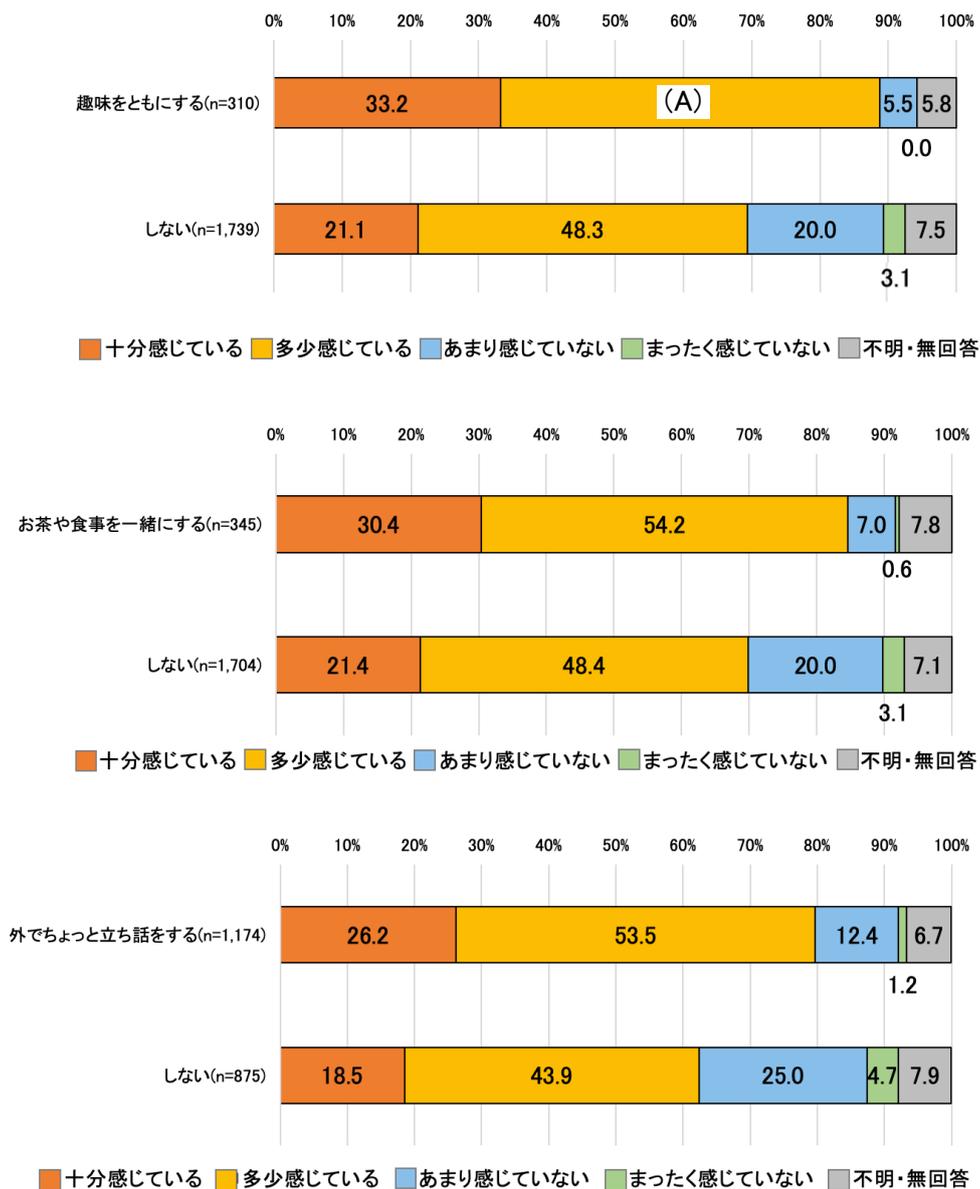


図1 近所の人との付き合い方と生きがいを感じる程度

表1、図1の出典：内閣府「令和4年度版高齢社会白書」令和4年6月14日公表

*出題の都合上、部分的に省略・改変し図・表を作成してある。

問2 高齢者は、外出することで他者との交流や趣味活動、ボランティアや勤労などの社会活動の機会を得ることができる。また、外出すること自体が高齢者の体力維持・向上にも寄与すると考えられる。図2-1、2-2はそれぞれ、「年齢・性別からみた外出の頻度」と「外出頻度別からみた生きがいを感じる程度」に関する質問への回答を示す図である。これらの図について、以下の問いに答えよ。

1) 図2-1において、65～74歳と75歳以上とで「よく外出する」もしくは「たまに外出する」と答えた者の割合の合計を比較すると、男性の75歳以上は、65～74歳のそれと比べると4ポイント低いことがわかる。女性について同様の計算をし、75歳以上は65～74歳と比べて何ポイント低いかを答えよ。

答え () ポイント

2) 問2の1)で算出した女性の減少したポイントは、男性の減少したポイントの何倍となるか。
なお、割り算を行う場合は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを算出せよ。

答え () 倍

3) 以下の選択肢a～eのうち、図2-1、2-2から言えることを2つ選びなさい。

- a. 全ての年齢層において、男性は女性と比較して「よく外出する」と答えた者の割合が高い
- b. 男女ともに75歳以上は、65～74歳と比較して「よく外出する」と答えた者の割合が高い
- c. 「よく外出する」と答えた者のうち、生きがいを「十分感じている」と答えた者の割合は、「ほとんど外出しない」と答えた者のそれと比較して、約5倍である
- d. 75歳以上の女性が「よく外出する」と答えた割合は、65～74歳の女性の割合の約1.3倍である
- e. 「ほとんど外出しない」と答えた者のうち、生きがいを「まったく感じていない」と答えた者の割合は、生きがいを「十分感じている」と答えた者の割合よりも高い

答え () ()

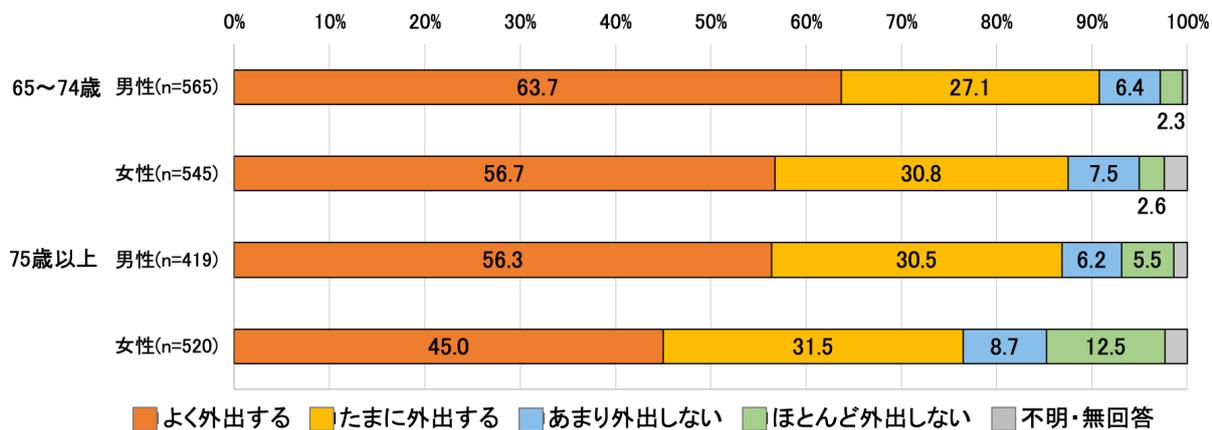


図 2-1 年齢・性別からみた外出の頻度

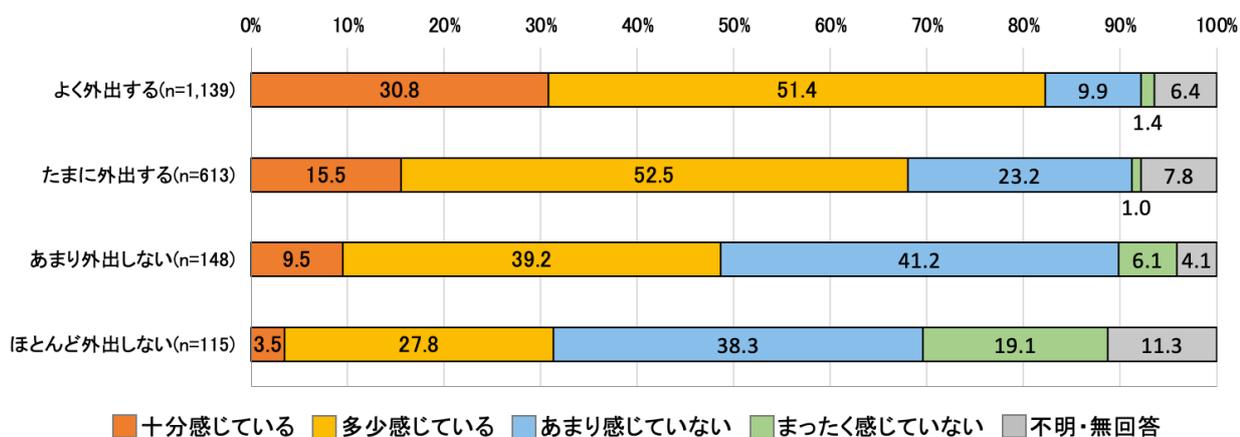


図 2-2 外出頻度別からみた生きがいを感じる程度

出典：内閣府「令和4年度版高齢社会白書」令和4年6月14日公表

*出題の都合上、部分的に省略・改変し図を作成してある。

問3 ここまでのデータでは、高齢者が生きがいを感じる程度とそれに関連する様々な要因について示してきた。その他にも、同じ調査の結果では、「収入を伴う仕事をしていること」、「健康であること」なども、高齢者が生きがいを感じる程度と関連することが明らかとなっている。実際には、これらの様々な要因が絡み合い、高齢者の生きがいに影響を与えていると思われる。そこで、我が国において、これからより一層の高齢化が見込まれる中、高齢者が生きがいを持って満ち足りた人生を送るためには、今後、社会としてどのような支援が必要になるだろうか。以下のキーワードを参考にし、あなたの考えを理由とともに400字以内で述べよ。

交流 ・ 健康 ・ 社会活動 ・ 環境づくり

